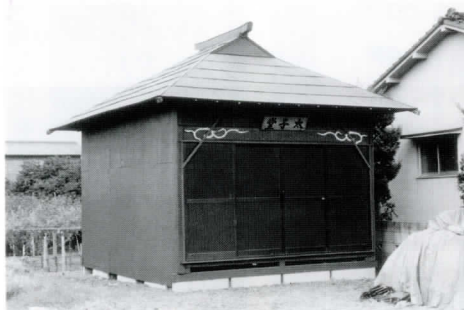


ほうおんじ
旧報恩寺の文化財
(稲城市指定文化財)稲城市東長沼2111
☎0423-78-2111
発行 1993.10.20

東長沼の常楽寺から京王線稲城駅をはさ
んで三沢川に至る一帯には、昭和38年頃ま
では亀山と呼ばれる丘陵地が連なっていま
した。その後の造成工事によって、この場
所は平坦地となってしまいますが、かつて
はここに長沼城という中世の山城があった
といわれています。近世には、安永3年
(1774)に黄檗宗宇治万福寺の末寺である
大亀山光明院報恩寺が創建されます。明治
30年代に報恩寺は廃寺となりますが、同寺
が所有していた文化財の一部は、東長沼に
ある太子堂に移され、以後大切に保管され
ることとなります。

現在、太子堂内には、旧報恩寺所有の絵
画、典籍類11点が保存されています。これ
らの文化財は17世紀後半から19世紀中頃
にかけてのもので、宇治万福寺を創建した
隠元禪師(隠元豆を伝えた中国の禅僧)真筆
の費隱の像をはじめ、報恩寺を創建した初
代住職東洲常勝筆による百癡和尚像や典籍
類などです。また「金光明殿」と書かれた
扁額と対聯も保存されています。これらの
資料は、数少ない黄檗宗寺院の本末関係
を知るうえで重要なものといえます。



東長沼にある太子堂



隠元筆の費隱の像

旧報恩寺の文化財

	名 称	年 代
1	費隱の像 (隠元筆)	17世紀後半
2	百癡和尚像 (東洲筆)	18世紀後半
3	謙道恭公和尚像 (一)	安政4年(1857)
4	典籍1 (開山和尚筆)	
5	典籍2 (梅祖大師筆)	1700年前後
6	典籍3「雲晴八境開」(東洲筆)	18世紀後半
7	典籍4「和氣□山春」(東洲筆)	18世紀後半
8	典籍5「溪梅一朵香」(東洲筆)	18世紀後半
9	典籍6「明月印波心」(東洲筆)	18世紀後半
10	典籍7 扁額「金光明殿」(大鵬筆)	18世紀後半
11	典籍8 対聯 (一)	天保10年(1839)



常楽寺と龜山の旧景



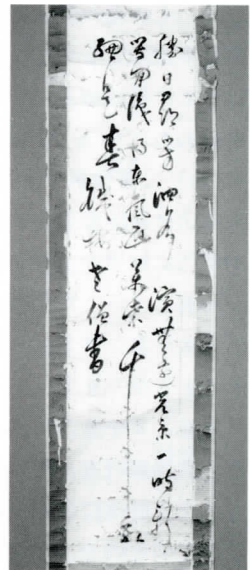
百癡和尚像



謙道恭公和尚像



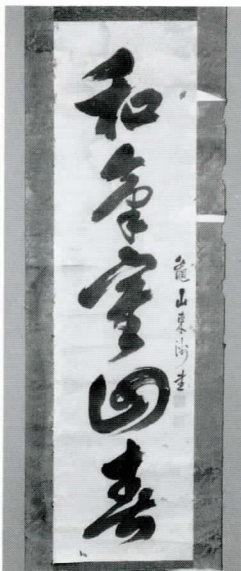
典籍1(開山和尚筆)



典籍2(梅祖大師筆)



典籍3「雲晴八境開」



典籍4「和氣□山春」



典籍5「溪梅一朵香」



典籍6「明月印波心」